

## 守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第3回

### 1. 実施概要

学区・回	守山学区 第3回
日時	2013年9月5日(木) 19:30~21:30
会場	守山会館
参加者	<p>住民20人(今宿1人、梅田町2人、勝部3人、焰魔堂2人、千代1人、阿村1人、伊勢2人、二町2人、古高1人、大門1人、横江1人、弥生の里1人 大鳥2人、サムズ守山1人)</p> <p>濱崎先生、県立大学生1人</p> <p>守山市(竹村、小島、高橋、坪内、吉原)</p> <p>地域未来研究所(田淵、貞松、前田)</p>
会場設営	4テーブルを設置し、自治会に関係なく抽選で着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(千代学区長)</p> <p>2. 説明</p> <p>①本日の進め方(田淵)</p> <p>②第2回検討結果の説明(田淵)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、抜けているたからものの追加、分類の再検討を行った。</li> <li>・学区の特徴として、栗太郡物部村と野洲郡守山村が合併した歴史ははずせないという意見があった。</li> <li>・たからものとしては、地域の神社仏閣のほか、企業と住宅が共存していることが守山学区の特長でもあるので工業団地を追加するよう意見があった。</li> </ul> <p>②学区のまちづくりの課題と方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区が抱える問題点や課題について議論したところ、「人のつながりの希薄化」や「伝統行事や自治会活動の維持が難しい」「新旧住民の関わりが難しい」、「急激なまちの変化への対応の遅れ」や「豊富な歴史資源が活かされておらず観光の目玉がない」に関する意見が数多く出された。</li> <li>・カードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。</li> </ul> <p>4. 結果の発表・共有</p>

- ・テーブル毎に参加者の代表が地域の課題、課題に対応するための方針について検討結果を発表。
- ・テーブルに共通して挙げられた課題としては、駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化に伴う「人のつながりの希薄化」や「伝統行事や自治会活動の維持が難しい」「新旧住民の関わりが難しい」などであった。また、「急激なまちの変化への対応の遅れ」や「豊富な歴史資源が活かされておらず観光の目玉がない」といった課題も挙げられた。
- ・今後のまちづくりの方向として、守山に住んで良かったと言われるまちづくり、人を中心としたまちづくりが守山の課題であるとの意見等が出された。

### 5. コメント（濱崎先生）

- ・守山学区はたからものが多いと思っていたが、それらは学区のたからものではなく生活する上での基本であるという話であった。これらをベースに学区として今後何をするかということが大切である。
- ・50年後には日本の人口は半減すると言われている。その時の守山の状況を頭の片隅に置きながら、今何をするかを考える必要があると思う。高齢化や人口増加に伴う自治会活動の難しさなど『人』を中心とした問題が出ていたが、守山学区の問題意識は非常に強いので、今後に期待しながら引き続き考えていきたい。

### 6. 次回の予定など

- ・次回会議の開催日時は、10月10日（木）19:30～、守山会館にて開催が決定された。

## 第3回守山学区会議の様子



## 2. 第3回学区会議の意見まとめ

地域のまちづくりの課題やまちづくりの方向性をまとめる。

### <守山学区のまちづくりの課題>

#### ■駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化

- ① 駅前を中心としたマンションや戸建て住宅の建設による急激な人口増加で 30~40 代の流入が進む一方、旧住民の高齢化により、年齢層に偏りが見られる。

#### ■人のつながりの希薄化

- ② マンションや賃貸物件の増加、地元商店街の減少等で、近所づきあいや人が関わる機会が減少し、人のつながりがなくなりつつある。
- ③ 人口増加で子どもは多いが、まちに子どもの姿が見られない。次世代を担う子どもたちが守山の伝統等を引き継いでくれるのか不安に感じる。

#### ■伝統行事や自治会活動の維持が難しい

- ④ 学区内に点在する神社仏閣や伝統行事の維持保存が難しい。
- ⑤ 共稼ぎ世帯の多い新住民や若者には、旧体制の自治会活動への参加に負担感があり、役員のなり手不足や活動への参加が少ないなど自治会ばなれが見られる。

#### ■新旧住民の関わりが難しい

- ⑥ 急激な人口増加により、新住民と旧住民との意識にギャップがあるなど、自治会活動や行事、近所づきあいにおける関わり方が難しい。

#### ■急激なまちの変化への対応の遅れ

- ⑦ マンション建設や宅地開発が進み、田園風景が崩壊している。
- ⑧ 自動車交通の増加に道路整備が追いついておらず、交通渋滞が多発し、また、小学生の通学路や生活道路に交通が入り込むことで危険が生じている。

#### ■都市化による農業の衰退

- ⑨ 市街化区域であるため都市計画税や高い固定資産税が、農家の負担になり、後継者不足もあって、宅地化により農地が減少している。

#### ■身近な自然や川を守る必要がある

- ⑩ 守山学区は水に苦勞してきた地域である。先人の遺産である用水路や川に水が少なくなり、ホタルが減少するなど、身近な自然が失われつつある。

#### ■歴史資源が活かされておらず、観光の目玉がない

- ⑪ 豊富にある史跡や神社仏閣、中山道関連資源などの歴史資源が十分に活かされておらず、観光客を受け入れる状態にない。
- ⑫ 守山ならではの『食文化』にも乏しい。

## 2.1 地域のまちづくりの課題、方向

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化	地域（団地単位）によっては少子高齢化が進んでいる	
	人口の流入による年齢層のかたより	
	二町団地の高齢化	
	弥生の里で高齢化が進み、子どもが少ない	
	自治会の高齢化	
	新興住宅の増加に伴う新住民の増加	
人のつながりの希薄化	人のつながりがなくなった	<p>○人付き合いを大切にする</p> <p>○高齢者から若い世代への移行が出来るような場所</p> <p>○子どもを育てやすいまち（自治会で子どもを預かる）</p> <p>○地域で子育て（行政＋自治会）</p> <p>○現代社会は、生存競争の明け暮れ。せちがらい世相からの脱却。再構築が求められる。真に心の豊かさを構成できる社会環境の後押しをする施策が必要では。</p>
	賃貸マンション入居者の共助意識醸成	
	戸建て住宅を社宅として使っている家がある	
	今後増加するサービス付き高齢者向け住宅に対する交流活動が課題	
	地元小売店の減少により、人づきあいの機会の減少	
	地域で縦横が繋がる遊びがない（1人ぼっちになっている）	
	教育は学校まかせという思いは今に通じない。地域、家庭、学校が協力して推進していくシステムを確立していくことが大事	
	子どもが多いのに、街に子どもの姿が見られない。今後の守山を引き継いでもらえるのか	
	新しい団地には伝統行事 寺，神社等がない	
	JRで分断されて東西の交流がしにくい	
	犬のフンが多い。飼い主のマナーの問題	
	ペット特に犬が増えた。マナーを守る人が少ない	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域の伝統行事や自治会活動の維持が難しい	高齢化が進み、町内の活動に参加していただけない	○自治会の横断的な連携
	高齢者のパワーを活かす取り組み不足	○口を出すなら手を動かす
	民俗芸能は一旦消滅すると、復元は極めて困難。保存、伝承は不可欠	○子ども会からまちづくりへの参加を始める
	世代交代が進むに従い、事象月化していく。無関心、忘れ去られて行く	○若年層への動機付けが必要
	昔から伝わる伝承（遊びも）がなくなっている	○次世代を担う人の育成
	神社仏閣の末代まで維持保存	○シニア世代の活用・活性化
	敬老会は行事が催せない	○地域活動（まつりごと以外）は、慣習を維持するだけでなく、合理的に見直して簡略化出来る部分もあるのではないか
	自治会運営がむつかしい	○昔からの慣習を変えることも必要
	自治会役員のなり手がない	○働き方の改善（若い世代に余裕を）
	自治会活動への不参加住民が多くなった（特に転入者）	○人を動かせる魅力づくり、盛り上げが必要。楽しさをアピールすべき
	若者の自治会事業への参加が少ない	
	若い人の自治会離れあり。自治会を知っていただく努力が必要	
	共稼ぎ世帯での地域活動をいかにするか	
	新旧住民の関わりが難しい	子ども会の予算で地域の重役のために食事会を設けるなど、核家族の母親に不条理な負担を強いることで、役員の担い手不足を招く一面もあるのでは。
各種団体への加入者が減少		○新旧住民との融和融合施策等について行政からの積極的指導が必要
各種団体がなくなっている		○道徳感を育てる
急激な宅地化で新住民との意識にギャップがある		
新旧住民の融合が難しい		
住民増加により生活マナーの悪化		
子どもたちへの負担軽減		
個人情報プライバシー保護等のはやり文句が一人歩きしているのが心配		

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
都市化による農業の衰退	田畑が消え住宅地の増加	
	市街化区域指定により田が減少。道路側より開発が進み、中央に農地が残る	
	農地にも都市計画税がかけられ、農家には負担増になっている。緑地の減少。	
	農地の固定資産税も高く、後継者のいないため農家がなくなっていく	
	高齢化が進み農業の後継者が不足	
	離職者の激増による農業関係行事への参加者の減少	
	農業用水路の清掃等	
急激なまちの変化への対応の遅れ	のどかな田園都市の崩壊	○計画的な都市づくり
	用途地域が変わって住専になった	○小規模開発のルールを変更し、防災、人に優しい街づくりに寄与する
	マンション建設と周辺住民への影響	○ごみ集積所の規格、色を統一する
	旧在所周辺の宅地化	○守山駅西口の街並区画整理事業を実施し、表玄関の景観を向上させる
	マンション害に必要で有益な防災対策	○活性化のためのルール変更
	アパート、マンションの老築化	○墓地公園の整備
	物（建物）から人へ、目的があつての建物計画	
	今の街の発展（人口増加）は守山が田舎だから。守山が良いからという理由ではない	
	工業地域における団地の減少（工場の進出）	
	駅東の工業団地の再開発が必要（開発時は長期視野で始めたのかもしれないが今となってはお荷物）	
人口増加と自治会公共施設の不足		

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
道路整備が都市化に追いついていない	住民の増加により交通渋滞が多発	
	道路があぶない 特にJR横断部分の道路	
	守山学区内道路（特に主要道路への接続部分）はラッシュ時に交通渋滞	
	湖南幹線道路の開通に伴う交通環境の変化	
	雨に日の駅周辺の渋滞	
	小学生の通学路の道路が狭い	
豊富な歴史資源が活かされておらず、観光の目玉がない	守山は食文化に乏しい。活性化に使えるユニークな「食」が不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国に発信できる食の創造</li> <li>○伊勢遺跡の整備、建物の復元、自治会の区画整理（道路整備）等</li> <li>○伊勢遺跡を中心とした文化ゾーンの設定</li> <li>○歴史遺産を現況保存，維持することに予算が必要。</li> <li>○観光客の誘致</li> <li>○卑弥呼も価値大 観光に力を入れていく</li> <li>○中山道案内ボランティアのPR・質の向上</li> </ul>
	伊勢遺跡をもっとPRすべき	
	たからもので活性化できない	
	史跡、神社仏閣など有名であっても地元民が知らない	
	歴史観の見直し	
	古い街並みの消滅	
	観光客を受け入れられる状態ではない	
	守山学区には歴史遺産がたくさんある。本腰を入れて取り組めば観光のお客さんも増えるのでは	
近な自然や川を守る必要がある	コンクリの川壁になり、ホテルが少なくなった	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホテルを今までも、これからも頑張っていく</li> <li>○河川美化</li> </ul>
	地域を巡る用水路は先人が苦勞して構築された遺産である。いつまでも維持管理していくことが大事。	
	冬場の河川水量の減少	
	雨水幹線が出来てありがたいが、曜日の加減で下流に水が流れてこない	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
その他	守山市行政の横のつながりを緊密に	○民活特別区域として行政サービススピードを狙う
	お墓をかえす人が増えている	
	公園が増え草刈りが大変	
	中学校の自由選択制を導入	
全体		○住みやすさ日本一を ○「住みたい」と言われるまちに ○守山に住んで良かったと言われるまち